

医療法人社団博友会 広報誌

ご自由にお持ち帰りください

博友会 だより

Hakuyukai - Dayori

医療・看護・介護を通して
地域に貢献いたします



アルコール依存症で 全身の臓器に 障害が現れます

医療法人社団博友会 平岸病院 精神科
西村 拓哉 医師



医療法人社団博友会は5つの施設で社会貢献しています



平岸病院

精神科・神経科・内科
神経内科・歯科・訪問看護
赤平市平岸新光町2丁目1番地
TEL: 0125-38-8331



北の峰病院

精神科・神経科
富良野市中御料2062番地
TEL: 0167-22-2011



介護老人保健施設博寿苑

入所・短期入所
通所リハビリテーション
赤平市平岸新光町2丁目4番地
TEL: 0125-37-2001



平岸クリニック

精神科・神経科・心療内科・内科
リハビリテーション科・デイケア・ナイトケア
赤平市平岸新光町1丁目1番地
TEL: 0125-38-8393



共同生活援助事業所グループホーム博友荘

入居による生活援助
赤平市平岸新光町4丁目34番地
TEL: 0125-37-2077

肝臓だけではありません

アルコール依存症で 全身の臓器に 障害が現れます



医療法人社団博友会
平岸病院 精神科

西村 拓哉 医師

昭和46年 岩見沢市生まれ
平成14年 秋田大学医学部卒業
平成14年 秋田大学医学部大学院
札幌医科大学付属病院 精神神経科
平成20年 三笠市立病院研修医
平成22年 平岸病院精神科勤務

アルコールを飲みすぎると肝臓を悪くすることは広く知られていますが、

心臓や脳神経の病気の原因になることはあまり知られていません。アルコール依存症の患者さんは10代から高齢者までと幅広く、高齢社会となった近年は高齢者の患者数が増えています。

強くても弱くても
飲酒を続ると依存症に

正常な大量飲酒とアルコール依存症の違いは、「アルコールをコントロールして飲むことができるか、できないか」です。アルコール依存症の診断は「毎日飲む」「飲酒の時間や場所が社会基準から外れてくる」「隠れ飲みをする」などの行動が目安になります。



失業、死別や
離婚などが
ストレスや
ります。

アルコールの長期大量飲酒によって生じる身体の病気には、「アルコールが直接作用して起こるもの」「栄養不良によって起こるもの」があります。肝臓に障害が生じるのは有名ですが、その他にも脾臓、胃腸、心臓、脳・神経・筋肉、骨、ホルモンや生殖機能など全

アルコールによって
生じる身体の病気

きつかけで飲酒が習慣化し、そのまま飲み続けていると飲むこと以外考えられなくなり、身体も人間関係も壊れていきます。

身の臓器に問題が出てきます。アルコールが切れると、手や全身のふるえ、不眠、焦燥感、幻聴、幻覚などの症状が現れるようになり、飲むと消失するため飲酒を繰り返すようになります。アルコール依存症の患者さんは、「意思が弱く、常識がない」と非難されますが、それは病気の特徴のひとつであって、個人の人格とは別なものと考えする必要があります。



- 「アルコール依存症の予防」
- ゆっくり時間をかけて飲む
- つまみなどを食べながら飲む
- 1週間に1日か2日は断酒する

治療は断酒の手助けを医療的に行うものです。家族の理解や協力も必要です。本人が受診したがないときは、まず、家族がご相談ください。

医療法人社団 北海道恵愛会 札幌南三条病院

診療科／呼吸器内科・呼吸器外科・内科・消化器内科・麻酔科・放射線科・脳神経外科・健診センター
病床数／99床

診療時間／午前 9:00～12:00
午後 13:30～17:00

休診日／日祝・年末年始

〒060-0063

札幌市中央区南3条西6丁目4-2

電話 011-233-3711 (代表)

■診察に関するお問い合わせ

電話 011-233-3010

(地域連携室)



西田 憲策 理事長

医療法人社団博友会では、他の医療機関と積極的に連携・協力し、より質の高い医療を患者さんに提供しています。

肺がん診療で最先端医療を提供

札幌南三条病院は、肺がん診療を中心にした医療を提供しています。肺がんの手術症例数は北海道でもっとも多く、日本で初めて胸腔鏡手術を行った病院としても知られています。

胸腔鏡手術は、体への負担が少ない肺がんの最先端手術です。胸に小さな穴を数カ所開け、カメラがついた胸腔鏡や電気メスを入れて病巣を切り取ります。胸を開かないので、体の負担が少なく回復が早いことが利点です。

西田憲策理事長は「胸腔鏡手術は手術後の痛みが少ないばかりか、1週間ほどで退院できます。カメラで胸の中を見ながら、特殊な手術機器を使って

同院では、「どこに住んでいても、誰もが最先端の医療を必要に応じて受ける権利がある」との指針から、病診連携の窓口になる地域医療科にベテランの看護師を配置。全道各地の医療機関と情報交換しながら、患者さんの状

北海道の女性の喫煙率は、38年連続で日本一。5人に1人が喫煙しています。「肺がんの発生率は年齢と共に高くなるのですが、北海道では今後さらに増加することが予測されます。肺がんの初期は自覚症状がないので、タバコを吸う人は必ず年1回は肺がん検診を受けましょう」と呼びかけます。

肺がんは禁煙と早期発見が大切

操作を行うことから、熟練した手技が必要ですが、当院には専門医や専門スタッフが揃っています」と最先端治療に自信を見せます。

通院治療が可能な化学療法にも力を入れていくほか、北海道がんセンター（札幌市白石区）との連携で放射線照射治療も行っています。



高分解能CT



診察室



がんの早期発見に力を発揮するPET

態を適切に判断し、速やかに精密検査を行う体制を整えています。がんの診断に有効な医療機器PETや高分解能CTを有効活用し、肺がんの早期発見・早期治療に大きく貢献しています。

医療法人社団博友会では、札幌南三条病院に呼吸器関連の精密検査を依頼しています。ドックや検査をご希望の方は、受付や担当医へお申し出ください。

介護老人保健施設 博寿苑

音楽で心を癒す 音楽療法



会場は博寿苑4階のレクリエーションルーム。歌声が響くと入所メンバーから拍手が沸き上がりました

音楽療法とは、音楽によって、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などなどを目指す治療法です。

介護老人保健施設博寿苑では、今年から、北翔大学の岡元真理子教授を招き、音楽療法に取り組んでいます。

北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科教授

音楽療法士・声楽家 **岡元真理子先生**



**音楽は感情を誘い起こし
脳に良い刺激を与えます**

今年から介護老人保健施設博寿苑で実施している音楽療法を担当しています。

人間のあたたかな声が「心を一番癒す」と考え、音楽療法では、懐かしい唱歌や童謡、歌謡曲などをマイクを使わずに独唱したり、入所メンバーと一緒に歌ったりします。

音楽を楽しんでいる間は心地よさを感じます。その曲を初めて聴いたときの情景や一緒に聴いていた人とのことを思い出します。懐かしい感情

とほのぼのとした安心感が脳に良い刺激を与えるのです。

声楽家として医療施設での慰問活動は、30年ほど前から続けていますが、音楽療法士としては、まだまだ勉強中。音楽を通して入所メンバーのお役に立てるよう、一人ひとりの心を癒してあげられるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。

【プロフィール】

昭和49年 国立音楽大学音楽学部演奏科声楽専攻卒業
平成6年 北海道女子短期大学 非常勤講師
平成9年 北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤講師
平成9年 北海道女子大学非常勤講師
平成12年 北海道浅井学園大学
生涯学習システム学部芸術メディア学科教授
平成18年 北翔大学生涯学習システム学部
学習コーチング学科教授

学位：芸術学士・音楽学士・音楽療法修士
資格等：音楽療法協会認定ミュージックセラピスト(音楽療法士)
所属学会：二期会会員(全国)、北海道国際音楽交流協会、日本音楽療法協会会員、日本声楽発声学会、日本音楽教育学会

9月22日

博寿苑で2回目の音楽療法

2回目の音楽療法が9月22日に博寿苑で実施され、博寿苑入所メンバーとデイケア利用者から集まった40人あまりが参加しました。

音楽療法の実施は3カ月振りの開催とあって、心待ちにしていた参加者からは「早く始めましょうよ」と元気の良い催促の声が上がりました。

博寿苑の音楽療法を担当しているのは、札幌在住の音楽家で音楽療法士の岡元眞理子さん。「どこかで春が」「瀬戸の花嫁」



振りを付けながら参加者と一緒に歌いました



伴奏の電子ピアノ演奏は北翔大学芸術メディア学科の4年生寺村祐太さん

「ふるさと」を身振り手振りを交えながら参加者と一緒に歌った後は、昭和32年に大ヒットした流行歌「東京バスガール」の独唱を伸びのある優しい声で披露しました。歌うことができない入所メンバーもメロディーに合わせて小さく頭を動かし、中には涙をぬぐう姿も見られました。

参加者は、歌い終えた岡元音楽療法士の手を握りながら、「楽しかった」「先生ありがとう」「また来てください」と感謝の言葉を繰り返しました。

北の峰病院

札幌医科大学 夏季交流会を 開催

北の峰病院で7月31日、札幌医科大学夏季交流会が開催されました。

参加者は総勢50人。会場となった作業療法室大ホールに、札幌医科大学教授、准教授、教員、同門会員、精神科を志す研修医、学生、心理士、外国人医師らが集まりました。

札幌医科大学神経精神医学教室・佐々木竜二副教室長の開会挨拶に続



講演する谷理事長

き、北の峰病院・久保昌己院長が歓迎挨拶を行いました。

その後、5人の医師による講演が行われ、当法人谷博理事長は、自身の生誕から、医師として平岸病院で地域医療に打ち込む昭和40年代までのエピソードを秘話を交えて紹介。「40年代以降の回顧録の続きは来年の交流会で」と参加者と約束を交わし、講演会を閉めました。

札幌医科大学神経精神医学教室・斎藤利和教授による開会挨拶の後は、会場をレストラン北峯舎に移し、バーベキューや花火などを楽しむ懇親会を行いました。



学生たちは、現役医師の臨床現場の話に熱心に耳を傾けました



博友会物語⑥

医療法人社団博友会 理事長 谷 博

地域の医療を守る 医療法人に

水道が病院にやってきた！

昭和39年春、待ちに待った水道が病院にやってきます。赤平には水道工事を請け負う業者がいなかったため、職員と患者さんが協力しながら、水道を引くための配管工事を少しずつ進めてきました。私設屋内水道に本管を接続し、蛇口から金気臭のない水がほとぼしるのを見たときは、職員も患者さんも思わず歓声を上げました。私も「良質の水があつてこそ、病院が機能する」と嬉しくて仕方がありませんでした。病院には日常的に職員と患者さんが

協力し合う場面が数多くありました。共に体を使って力をあわせながら、劣悪な環境を乗り越えるという貴重な体験が、病院を地域の中核病院として発展・充実させる資産になったと感じています。

改修工事と法人化

昭和40年4月1日、院長に就任した私に迷いはありませんでした。「これからの精神病院は、近代的で科学的な医療を提供し、患者さんと家族に安心と満足を与える存在でなくてはならない。そのために、病院施設の環境整備と法人化が急務である」という方針を職員へ示しました。法人化すれば、社会的信用が高まるだけでなく、資金調達や医療機器購入、事業の展開や継続がスムーズになります。

念願だった「燃えない病院」にするための第1次改修工事は、昭和41年10月に終了。その後、木田事務長とともに病院を法人化する準備をすすめました。病床数が173床になった昭和43年4月1日、法人設立が許可され、平岸病院は「医療法人博友会 平岸病院」として新たなスタートを切ります。

【次号に続く】

地域ネット

単身高齢者の困りごとは「みまわり隊」にお任せください

平岸地区
住民生活支援事業

週1回の声かけ活動

「平岸地区に住む高齢者が孤立しないように」と、地域住民による「みまわり隊」（代表…医療法人社団博友会・谷博理事長）が、平成21年5月に誕生しました。

みまわり隊の構成メンバーは、町内会長や民生児童委員、ひらぎし薬局、

平岸マート、平岸病院の職員（仙田哲夫事務長、谷寛治事務次長、藤平洋志看護部長、玉堀理恵看護部長）など22人。2、3人のグループに別れ、平岸で独り人暮らしをしている高齢者宅を週に1回訪問し、安否確認や困りごとの相談に応じています。昨年は、吹雪時の通院や除雪などの要望に応えま

一目で分かるジャンパーを着用

メンバーは、みまわり隊の活動をより多くの地域住民に知ってもらおうと、赤平市の助成金を受けて今年8月に「オリジナルジャンパー」を作成しました。中心メンバーのひとりである平岸病院の仙田哲夫事務長は、「地域の高齢者に頼りにされる存在になりたい」と

思っています。困ったことがあれば、お気軽に電話をください」と話しています。



みまわり隊オリジナルジャンパーについて説明する仙田事務長

みまわり隊事務所
(平岸病院内)

電話:0125-38-8331
担当:仙田、谷